

子育て支援拠点事業第2回住民説明会議事録

(文責) 子育て支援課 桐原

日時	令和8年1月14日(水) 19:00~20:00
場所	大津地区公民館分館
参加	21名

【説明会の内容】

- ① 昭和園再整備事業について
 - ・ 昭和園の概要と課題
 - ・ 再編計画の内容
 - ・ 再編スケジュール
- ② 公立認定こども園・子育て支援施設整備について
 - ・ 整備の背景
 - ・ 公立認定こども園の概要
 - ・ 公立認定こども園と子育て支援施設の建設場所
 - ・ 公立認定こども園建設スケジュール

【ご質問】

Q インクルーシブ遊具と表現されたが、インクルーシブとはどういう意味なのか。

A インクルーシブとは「包括的な」という意味。様々な年齢や、特性を持つ子供たちが一緒に遊べるように、スロープがついていたり、高さや幅が調整されていたりする遊具のことをインクルーシブ遊具と呼ぶ。

Q あけぼの団地から昭和園に行く際に、現在階段しかないため、ベビーカーを押して登園される親子のためにもスロープの設置をお願いできないか。

A 再整備に際して、既存のスロープに昭和園南側からどのようなアプローチができるか検討をしていく。

Q 昭和園から東側の道路に落ちそうな危険箇所の再整備をお願いできないか。

A 危険箇所の点検は行い、修繕が必要な箇所は再整備の時期に合わせて行うのか、それまでの期間に前倒しで行うのか、点検内容を踏まえて検討する。

Q 中央公園は暑い時期には木陰がなく、また遊具も熱くなり夏場は子どもたちが遊べない。昭和園再整備に伴い木の伐採をする際には、木陰を確保しながらの伐採をお願いできないか。

A 枯れている木は伐採するが、それ以外の樹木については樹種を見ながら子どもたちの遊びに影響がないようバランスよく残していく予定。

Q 大津町は水遊びできる遊び場がないため、小さな噴水などを設置し、夏の暑い時期に水遊びができる環境の整備をお願いできないか。

A 水場の整備には費用や維持管理についての問題はありますが、街中に水遊び場がなく、設置のニーズはあるため、今回のご意見を踏まえたうえで、引き続き検討していく。

Q 南側遊具設置箇所にごんぐり広場とあるがごんぐりは昭和園にあるのか。

A 昭和園の中にはごんぐりの木はない。植栽の見直しの中で、ごんぐりや落ち葉など、子どもの発達に有益で遊びに活用できる樹種を検討していく。

Q 認定こども園の建設が昭和園の活性化につながるとは思えない。昭和園北側の数少ない平地のスペースに建設することで、現在の公園利用者の使用が制限される。東側の駐車場や、スポーツの森大津など他の町有地に建設するほうが良いのではないか。芝生広場でサッカーの練習をしている若者もいるため、別の場所に芝生広場を再整備するなど配慮をお願いしたい。

A 建設地を検討する中で、昭和園東側駐車場など他の場所も候補に挙がったが、子どもたちの安全性や、昭和園の活性化を考慮し、今回の場所を予定地と設定した。現在様々な方が公園を利用していると思うが、公園利用者の憩える場所として、いただいた意見を反映しながら整備していきたい。

Q 昭和園西側の東屋近くに小山があり、つつじが植樹されているが死角になっているため、学生の不適切な公園利用に繋がっている。撤去したほうが良いのではないか。

A 指摘の箇所については、公園管理担当としても把握をしている。再整備ゾーン外ではあるが、今回の認定こども園建設地にある芝生広場の代替地として整備するなど検討可能であるため、引き続き管理及び計画策定に取り組んでいく。

Q 木の伐採については、樹齢100年近い檜の木は、昭和園の昔の面影を残している部分であるため、伐採は検討してもらえないか。

A すべてを伐採するわけではない。遊具を設置する際には、付近の安全性を確保する必要があるため、樹木の状態に考慮しながら遊具設置箇所を決め、危険性の高い樹木は伐採を検討していく。まずは、樹木の状態を把握していく。

Q 配置図は今回示している内容で決定なのか。

A 最終的な案として進めているところである。

Q 今回の説明内容は議会に説明済みなのか。

A 12月議会にて説明をしている。

Q 少子化が進む中で、こどもだけでなく高齢者の方も使える施設が良いのでは。高齢者も集えることができ、こどもの見守りにもつながるため。また、昭和園の自然と融合した施設設計をお願いしたい。

A 自然を生かした施設であることや、公園利用者の方が交流できる場所であることは考慮したうえで設計を進めている。出生数が減少する中で、子育てしやすい町として、子育て世代の方に住んでいただける要因の一つとなるような施設にしていきたい。また、認定こども園の園児数が減少した際には、認定こども園の施設の一部を一般開放するなど、柔軟な利用ができるように設計を進めている。

Q 子育て支援施設は現在大津町にあるのか。あるのであれば、それが移転するのか。増設ということであれば、子どもが減少する中で、2か所も必要なのか。

A 現在中央公園敷地内に1か所設置している。中学校区に一つずつ整備をする必要があると考えているため、北中校区である昭和園内に新たに整備する。運営は直営で行い、相談機能を充実させていく。

Q 現在の大津保育園はコンクリート造だが、今回木造で建設する理由は。

A 自然の中の認定こども園であるため、建設地の環境に合わせ、木造とした。(※補足)

Q 園庭でプールをする際に、外から見えてしまうため、配慮が必要だと考える。しかし、閉鎖的にすることは、公園内の施設であることの利点を損なうため、難しいとは思いますが高低差を利用しながら外からの視線に配慮した設計をすべきだと考える。また、来園者と園児が自由に接触できる作りでは、防犯面のリスクが高いため、火災も含めた安全性の確保もしっかりと行ってもらいたい。

A 公園に建設することのメリットを最大限に生かしつつ、子どもたちの安全性も確保する施設となるようにバランスを取りながら整備を進めていく。

※構造についての補足

構造は、木造と鉄骨造での建設コストや耐久性なども比較検討し、木造での建設を予定している。